

蜂谷戸防災かわら版

第1号

自分の命は自分で守ろう！

「近助」と「自守防災」！

平成26年1月7日

小川自治会

蜂谷戸支隊

情報・広報班

本年より、自主防災隊・蜂谷戸支隊の活動状況や防災情報をより迅速かつ緊密に皆様へお伝えすべく「蜂谷戸防災かわら版」をお届けすることになりました。原則月1回発刊の予定です。ご家族全員でお読みいただき、ご家庭の防災準備に役立てていただければと思います。

自主防災隊の活動報告

< 自主防災隊全体の活動 >

25年4月・自主防災隊本格活動開始。5支隊の分担地域や責任者、隊員等の組織、規定等を決定

4月・第1回自主防災隊「責任者全体会議」開催

6月・「防災班別専門会議」スタート

10月・「自主防災ガイドブック」及び”無事です“の旗作成、全会員に配布

10月・防災訓練及び”無事です“の旗出し訓練実施

< 蜂谷戸支隊の活動 >

25年4月・蜂谷戸支隊の分担地域決定。自治会の第4支部及び第7支部約190所帯

4月・蜂谷戸支隊正式発足。支隊長5名、班長20名、隊員52名合計77名でスタート

9月・隊員全員による第1回「蜂谷戸支隊全体会議」開催

9月・蜂谷戸支隊管轄地域を、更に細かく”近隣助け合い“のベースとなる5つのブロックに分割

10月・前述5つのブロックを使った”無事です“の旗出し訓練を実施

ご存知ですか？…防災豆知識

「阪神大震災の際、建物の下敷きになり助け出された人の77%は家族や近隣住民に助けられたそうです」

- ・一方で救助が間に合わず6千人余が亡くなっています。皆さん、これまで「イザという時は救助隊が助けてくれる」と思っていませんか？
- ・実は近所同士の“近助”こそが命を救うのです。
- ・しかし、“近助”が効果を発揮するには、日頃から「地域の絆」が強くなければなりません。
- ・また、災害時に安否を確認しあったり要援護者を救出したりするには、日頃からリストを作ったり事前に準備する必要があります。
- ・或いは、火事が起きた時も消防隊は駆けつけてくれず自分達で助け合って消火するしかありません。そのためには日頃から自分達で消火できるよう訓練することも必要です。
- ・そこで「自主防災隊」が結成されたのです。

**「自主防災」は「自守防災」！
家族の命は自分で守ろう！**

耳より！…役に立つ防災ノウハウ

「イザという時は“防災ベスト”が便利です」

- ・大震災の際「折角用意していた緊急持出袋を持ち出せなかった」という方が多かったそうです
- ・それは“緊急持出袋が押入れの奥に入っていたり、重くて嵩張るため“というのが理由のようです。
- ・イザという時はむしろ「防災ベスト」が役に立ちます。
- ・緊急時に必要な物を防災ベストに収納し玄関ロッカーの取り出し易い所に掛けておき、イザという時はこれだけ持ってまず逃げるのです。
- ・防災ベストは、身軽に逃げられる、両手が使える、怪我や寒さから身を守れる、物を取り出し易い、常に貴重品を身に付けることができる等の利点があります。
- ・防災ベストに収納するのは、携帯ラジオ、懐中電灯、予備電池、ホイッスル、眼鏡、軍手、マスク他です。
- ・ネット通販では5千円位から高機能の1万円～2万円のものまで様々な防災ベストを販売しています。
- ・ホームセンターで3千円弱で売っている作業用ベストでもポケットが多く十分に立ちます